



①大太鼓役・正面→
半身の着物は、
豪華な縫い取り
の前掛け。背中
で綿入りの紅白
紐を締め、二つ
の異なった文様の
打ち掛けを帯に挟んで
なびかせる。
②後頭部には、紙に水引
を結んだような縁起物。

※打ち囃子のようなすは、動画でもご覧
いただけます。YouTube『入谷八幡
打ち囃子と獅子舞 南三陸町志津川
にて』(投稿者 memokko01)

東北はいま いろとりどりの 秋

鮮やかに、
秋は「まつり」

9月15日、翌日に秋の大祭を控えて、入谷八幡宮伝統の「打ち囃子」が、隣接する志津川集落で披露されました。

子供たちは、お化粧と着付けで、朝から大変だったようですが、その甲斐あつての堂々たる姿です。

かつて華やかな衣装を身に纏って太鼓を叩いていたお父さんたちも、今は青いハッピ姿で笛を吹き、神輿を担ぎ山車を牽き、ときには合の手を入れながら、粛々と祭りを進行しています。

途切れることなく受け継がれる伝統、いくつになっても祭りは心が躍るものですね。



獅子を導く踊り(後ろに下がる)



we support!

RQ
災害教育センター

「東北に黒糖を送ろう! 大作戦しんぶん」改め
復興支援『すけきた』
「すけきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来てよ」という
意味である。

霜降朝日

RQW 配色講座

タワシを編むにも帽子を編むにも、避けては通れない「配色」。苦手意識を克服し、色合わせを楽しもうと、10月11日、歌津官の浜で、はじめての「配色講座」が開かれました。



座学もあった(20分ほど)

お手玉を教材に布の組み合わせが与える印象を話し合う



「違和感を感じない配色が良くない」という感覚を、このあたりでは「えすい」と表現するそうです。

empowerment



しゅう糸を使った実習

RQWが今年度、力を入れている活動のひとつが「エンパワメント(自らの力をつける)」。被災地から生まれる手作りを、より魅力的にしていけるために、みんながスキルアップに励んでいます!

「生きる」と「からまれる」

被災者、自分史を力に

朝日新聞

河北新報

東京新聞

日本経済新聞

自分史「生きる」に
生きた証し被災者に
聞き書きの興味が好評

一人ひとりの色を紡ぐ

RQ聞き書きプロジェクトは、最近になって新聞などに取り上げられる機会が増え、それに伴って「あの人の自分史を読んだ、私もお話がしたい」など、嬉しいお申し出もいただけるようになってきました。話すことで元気になってほしい、そして貴重な体験を後世に伝えたい、知ってもらおうことで、お役に立てるチャンスが広がっています。

ふりかえり企画

RQ 活動年表

2011年10月31日、西表でお預かりした活動支援募金を、RQに送金しました。そして「お金でない」支援の模索が始まります。

生活再建支援
(以降現在に至る) ↓

- 10/21 RQバス最終便(以後は不定期出発)
- 10/28 RQW「さざほざ」ブランド始動
- 10/29 卯名沢水仙ロードの清掃、球根の試し植え(2011立冬号で紹介)
- 10/29-30 秋の親子キャンプ
- 10/31 西表島エコツーリズム協会よりRQへ 活動支援金41,890円送金
- 11/3 「くりの木ひろば」オープン、東北本部主催地域交流会

